



Title	特輯号刊行にあたって
Author(s)	後藤, 昭雄
Citation	語文. 1998, 70, p. 1-2
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/68924
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

特輯号刊行にあたって

後藤 昭雄

今年、一九九八年は、大阪大学文学部にとって記念すべき年である。

まずは、文学部が創立されて五十年という画期にあたる。これを記念して、秋には、文学部としての学術シンポジウムが行われるのを初めとして、学内でいろいろな行事が予定されているが、大阪大学国語国文学会としても、これに参画して、今年度の大会（来年一月）は意義あるものにとしたいと考えている。

重ねて、この四月、かねてからの大学院重点化という希望が実現した。文学部としては全国で三番目である。ここに大学院大学として新たな出発をすることになった。

このような文学部にとって期を画すべき年に、『語文』もまた七十輯という節目を迎えたのである。

『語文』の歴史を顧ると、第一号が発刊されたのは一九五〇年（昭和二十五年）の十一月である。ただし、当初は、その「編集後記」に「大阪から一つぐらゐ国文学誌が出てよかろうと話し合った末」とあるように、大阪大学に限定されたものではなく、大阪を中心とする研究者に開かれたものであった。その後、各大学がそれぞれに学会誌を持つようになり、『語文』も大阪大学国語国文学会の機関誌となった。このように、時代の推移のもとで、本誌はその使命を果たしつつ、七十輯を迎えた。そこで、これを記念して特輯号とすることとした。

国語国文学研究室は、全国的にみても貴重な特殊文庫をいくつか蔵しているが、その一つに忍頂寺文庫が

ある。その所蔵資料について、以前から富田（渡邊）志津子助教授の指導のもとに、近世文学専攻の院生諸氏を中心として、総合的な調査が行われてきたのであるが、終了をみた。そこで、その調査結果を広く学界に報告することを以って、記念とした。

忍頂寺文庫については、主に近世文学研究者の、知る人にとっては知られていたが、広く知悉されているとはいいがたかった。内容については本文をご精読いただきたいが、これによって、貴重な本資料が十全に学界に利用されるようになることを我々は希望している。

（大阪大学教授）